

SNS発信

齋藤 友幸さん

見えなかった魅力に
気づいた

退職を機にSNSを始めました。初めは普通のカメラで撮影していましたが、梅の写真をとまたま投稿したところ、プロのカメラマンからお褒めのコメントをいただいたのがうれしくて、カメラにもこだわるようになりました。

投稿は、美味しかった食べ物や季節ならではの風景、参加したイベントについてのものが多いです。「おいしそうー」「景色がきれいー」「私も行きたいー」とコメントをもらえるとうれしい気持ちに。コメントには必ず返事をするようにしています。

SNSを通じて知り合った人からまた別のイベントに誘われることで交友が広がり、知らなかったその地域の魅力に気づくことができました。手軽に始められるSNS、私の投稿が地域の魅力に気づくきっかけになってくれたらうれしいです。



スイーツも好きです。つい食べ過ぎてしまいますが、行き帰りを自転車にして運動を心がけています。時には、美味しいものやきれいな花を目当てに、自転車で20~30km走ることもあって、その様子も投稿しています。

コミュニティ広報紙

小美玉市
まちづくり組織
連絡会
広報紙 絆

花山 俊夫さん

住民と行政を
つなぐ広報紙を

8年前、還暦を機にまちのことを勉強しようとして「ふるさと塾」に参加したら、そこで声をかけられ、「こころふれあう羽鳥の会（羽鳥地区コミュニティ）」の運営委員になりました。コミュニティは、住民と行政をつなぐ存在。共通する大きいテーマを整理して広域で政策化するため、行政区と連携することが大事です。

広報紙は、たかさんのコミュニティ活動を紹介しています。自分が住む地区だけでなく、他の地区の活動を知ってもらうことで、住んでいる人同士が交流し互いに活性化できます。何よりも、共感を持ってもらえる広報紙を目指してつくっています。まちづくりを継続するため、次世代の人材を育てることも必要です。広報紙づくりやコミュニティの活動をする中で、コミュニティの意義や良いところを語る仲間を増やし育てていきたいです。



パソコン歴は50年以上。自宅のパソコン教室で、地域の人たちにボランティアで教えています。文字の入力から始めて、最後には自分でチラシや広報紙が作れるまでになります。繰り返しやることで身につく、自信につながります。

Omitama Times

Omitama Shigoto
立原 陽子さん



何かを始めたい人の 背中を押したい

昨年9月から、小美玉に関わりのあるヒト・モノ・コトを紹介するインターネット番組「オミタマタイムズ」を月1回配信しています。予定していたイベントがコロナ禍でできなくなり、「それでも自分たちにできることを」と番組を始めました。旬のレンコン料理を紹介したり、茨城空港で配信したりと、自分たちがやりたいことや紹介したいことを取り上げていきます。「見たよ」と反響があるとうれしいです。生配信中に視聴者からもらったコメントはその場で紹介しているの、双方向でコミュニケーションできるのも楽しいですね。

人と会って話をする機会が減っていますが、オンラインでも交流できる場があります。いろんな人にゲスト出演してもらって、出るよまの有名な人になっちゃうような番組にしたいです。楽しく活動する私たちを見て、「自分も」と何かを始める人が増えたらいいなと思います。



Omitama Shigoto(オミタマシゴト)は2019年にできた市民団体。月1回の動画配信のほか、茨城空港でチョークアート展を行うなど活動の幅を広げている。



◀ Omitama Times

いばらじお♪

清宮 真さん



みんなの役に立つ 「メディア」に

茨城県内の飲食店や子連れで楽しめるイベントの情報を「いばらじお♪」というブログ※で発信しています。ブログは、茨城の情報を探すためにネット検索して見る人が多いので、隅々まで読んでくれるのがいいところ。茨城のことをよく知らない他県の人たちにも、茨城の良さを知ってもらおうきっかけになればと思っています。茨城名産の常陸秋そばが食べられる店や、地元で愛されるラーメン店の記事は、特に人気があります。

コロナ禍で飲食店が苦境になり「テイクアウト情報を書いて」と言われることが増えました。頼りにしてもらえたことがうれしかったです。頼りにしてもらえたことがうれしかったですね。ただのクチコミを「メディア化」できるのがブログの強みだと思っているので、地域のことなら何でもわかる「小さなグーグル」を目指して、みんなの役に立つブログにしていきたいです。



料理の写真は、画面からはみ出くらい大きく撮って美味しさを表現。「ブログを見て行ってきました」とコメントをもらうとうれしいです。



◀ いばらじお♪

※ブログ…インターネット上で公開する日記のようなもの



「私のオススメ」を語る 仲間を増やしたい

タウンジャーナル小美玉は、市民が「私のオススメ」を取材して紹介する超地元密着のデジタルメディアです。私たち市民が茨城新聞の研修を受けてレポーターになり、テーマの選定から取材、執筆、記事チェックまで行っています。飲食店や知られざる見どころ、仕事やボランティアで頑張る人たちの紹介など、さまざまな記事を掲載しています。

テーマ選びにはこだわっていて、21名いるレポーター自身の「オススメしたい」という想いを大切にしています。地元の人が本当にオススメするものだからこそ、みんなが知りたいと思ってくれるからです。

いつも行くお店でも、取材で訪れると普段聞けない話が出てきて、もっと親しくなれるのがうれしいです。記事をきっかけに、読んでくれた人がまちに関心を持ったり、自分もレポーターになりたいという人が増えたらいいなと思っています。



「住民劇団」が18年間続くワケとは
サイトは昨年末に公開したばかり。週1回新しい記事を投稿しています。レポーターたちが想いを込めて書いた記事をぜひ読んでほしいです！
▼タウンジャーナル 小美玉の記事



QRコードの使い方

1. スマホでカメラ等を起動する

iphone



Androidの場合



または



2. QRコードに スマホをかざす

ポイント

カメラがコードを読み取れるように、近づけたり離したりして調整します。



3. 画面に読み取り結果が 出てきたら、そこをタップ

目的のウェブサイトが表示されます！



スマホで簡単 /

QRコード 読み取ってみよう

▼小美玉市
ホームページ



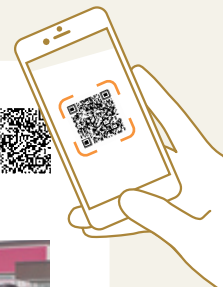
最近、チラシやポスターなどで見かけることが増えてきたQRコード。スマホをかざすだけであっという間に目的のウェブサイトを見ることができるので、もっと詳しく知りたいときに便利です。

「広報おみたま」でも、紙面に入りきれない情報を補完するために活用しています。実はやり方も簡単！お手持ちのスマホで、ぜひチャレンジしてみましょう。

教えてくれたのは…

ドコモショップ小美玉店
講師 松原さん(左) 野澤さん(右)

毎日、無料のスマホ教室を開催しています。他社のケータイをご利用の方にも人気の教室です。私たちと一緒に、スマホの楽しみ方を知りましょう。





市民主体の小美玉モデル 全国の先駆けとして期待

情報を伝える手段は、インターネットの普及により日々多様化しています。新聞社や自治体は従来の紙媒体も維持しつつ、電子版やウェブサイト、SNSなど、受け手である読者の生活スタイルに合わせたさまざまな方法を組み合わせて情報を伝えていきます。地域情報を発信するのは企業や行政だけではありません。個人が手軽に発信できるようになり、住民一人ひとりが情報発信の主役になりました。

小美玉市は市民の情報発信が活発です。「タウンジャーナル小美玉」は、市民がまちの魅力を見つけて、みがき、光をあてるという「ダイヤモンドシティ小美玉」のメッセージを体現した市民メディア。顔が見える住民がおすすめする「クチコミ」は、読者の信頼感が高まります。自分たちのメディアを持つことでそれが情報源となり、埋もれていた地域情報が、スマホディアに取り上げられやすくなる効果もあります。

茨城新聞は「タウンジャーナル小美玉」のレポーター研修と記事校正をする役割で関わっています。記事を見て、レポーターそれぞれにこれまでの活動で得たノウハウが備わっていると感じ、「小美玉をより良くしたい」という地域への愛情と熱量の高さに驚きました。地方紙が関わる住民主体の地域メディアは全国初です。タウンジャーナル小美玉が認知され育てば、各地に地域メディアが立ち上がり、「小美玉モデル」が全国区になるかもしれません。小美玉市民の穏やかさの中にある「まちへの熱量」が一体どこから来ているのか、これからも注目して探っていききたいです。



小川地区タウンレポーター



美野里地区タウンレポーター



玉里地区タウンレポーター



茨城新聞社 地域連携室長
細谷あけみさん